

不和

- 経済的問題 例：極度の貧困，不適切な家計，不十分な生活保護
- 保健機関利用上の問題 例：不適切な保健機関の内容，保健施設への輸送機関欠如，不適切な健康保険
- 法律関係および犯罪に関連した問題 例：逮捕，拘置，訴訟，犯罪の犠牲
- その他の心理社会的環境的問題 例：天災，戦争，他の敵意に遭遇；カウンセラー，ソーシャルワーカー，または医師など家族以外の世話人との不和；社会福祉関係機関の欠如

多軸評定記録様式（50頁参照）を用いる場合，臨床家は，関連のある心理社会的および環境的問題を同定し，問題となる特定の要因を示しておくべきである。問題カテゴリー・チェックリストを含む記録用紙を用いない場合，臨床家はIV軸に特定の問題を列挙しておくだけでもよい（49頁の例を参照）。

IV 軸

心理社会的および環境的問題

1次支援グループに関する問題

社会的環境に関連した問題

教育上の問題

職業上の問題

住居の問題

経済的問題

保健機関利用上の問題

法律関係および犯罪に関連した問題

その他の心理社会的環境的問題

V 軸 機能の全体的評定

V軸は，その人の機能の全体的レベルについての臨床家の判断を記録するためのものである。この情報は，治療の計画を立て，治療の効果を評価し，また転帰を予測することに役立つ。

V軸における全般的な機能の記録は「機能の全体的評定（GAF）尺度」を用いることで行われる。GAF尺度は，単一の測定値を用いてその人の臨床的改善を全般的な意味で追跡するのに特に役立つ。GAF尺度は心理的，社会的，および職業的機能のみについて点数がつけられる。その説明には，“身体的（または環境的）制約による機能の障害を含めないこと”と指定されている。

GAF尺度は10の機能範囲に分割されている。GAF評価をするということは，その人の全般的機能レベルを最もよく反映する1つの値を取り上げるということの意味する。GAF尺度における10点ごとの各範囲の記述は2つの部分からなっている：第1の部分は症状の重症度に関

するもので、第2の部分は機能に関するものである。GAF得点は、症状の重症度または機能レベルのどちらかがその範囲の10点の中であてはまる点数である。例えば、41～50点の範囲で第1の部分には“重大な症状（例：自殺念慮、強迫的儀式が重症、しょっちゅう万引きする）”が記述されており、第2の部分には“社会的、職業的、または学校の機能におけるなんらかの深刻な障害（例：友達がいない、仕事が続かない）”と書かれている。その人の症状の重症度と機能レベルが不一致の場合は、最終的なGAF評価は常に両者のうち悪いほうを反映する、ということに注意すべきである。例えば、自分自身に対して著しく危険であること以外はよく機能しているという人であれば、そのGAF評価は20より下になる。同様に、心理的症状は少ないが機能は著しく障害されている人（例：他に精神症状はないが物質使用への過度のとりわれから仕事や友人を失った人）であれば、そのGAF評価は40かそれ以下になる。

ほとんどの例では、GAF尺度による得点は現在のエピソードに対して（すなわち、評定の時点における機能レベル）なされるべきである。それは現在の機能が、一般的に、治療または医療の必要性を反映するからである。機能の毎日の変動を考慮するために、“現在”のGAF評価は過去1週間の機能の最低レベルと操作的に定義される。状況によっては、GAF尺度の得点を治療開始および終了の両時点で記しておくことが有用であることもある。GAF尺度は、また、他の期間についても得点がつけられる（例：過去1年間で、少なくとも2～3カ月の間の機能の最高レベル）。GAF尺度は、V軸で次のように記録される。“GAF=”の後に0点から100点までのGAF得点をつけ、その後の（ ）にその得点を示す時間を書いておく。例えば、“（現在）”、“（過去1年の最高レベル）”、“（退院時）”（49頁の例を参照）。

GAF評価がなされた際にGAF尺度のどの要素も見落とされていないことを保証するために、GAF得点を決定する以下の方法を適用してもよい：

第1段階：最高のレベルから始めて、「その人の症状の重症度または機能レベルのどちらかがその範囲の記述に示されているよりも悪くないか？」と問うことで、各範囲の評価を行いなさい。

第2段階：その人の症状の重症度または機能レベルのどちらか悪いほうに最もよく適合する範囲に到達するまで、尺度を下のほうへ移動し続けなさい。

第3段階：不十分な途中停止でないことを再確認するために、すぐ下の範囲を見なさい。その範囲は、その人の症状の重症度および機能レベルのどちらにも重すぎるようにすべきである。そのようになっていれば、適切な範囲に到達している（第4段階に進む）。そうでなければ、第2段階に戻って、尺度の下方移動を続けなさい。

第4段階：選択された10点ごとの範囲のなかで1つのGAF得点を決めるために、その人がその10点の範囲の最も高いほうまたは最も低いほうで機能しているかを考えなさい。例えば、声は聞こえているが行動はその影響を受けていない人（例：長期間の統合失調症をもつ患者で幻聴は病気の一部だと受容している人）を考えなさい。その声が比較的頻繁でなければ（週に1回以下）、39か40の得点が最も適切であろう。反対に、その人がほとんど持続的に声が聞こえるならば、31か32の得点がより適切であろう。

状況によっては、社会的および職業的能力低下を評価したり、心理学的症状の重症度とは独

立して社会復帰の進み具合を追跡しておくことも有用であることがある。この目的のために、提案中の「社会的職業的機能評定尺度」(SOFAS) (781 頁参照) が付録 B に入れられている。このほか状況によっては有用かもしれない 2 つの尺度が提案中である——「対人関係機能の全体的評定 (GARF) 尺度」(779 頁参照) と「防衛機能尺度」(776 頁参照) ——これらは、状況によっては有用なものであり、付録 B に入れられている。

機能の全体的評定 (GAF) 尺度

使用法

精神的健康と病気という1つの仮想的な連続体に沿って、心理的、社会的、職業的機能を考慮せよ。身体的（または環境的）制約による機能の障害を含めないこと。

コード（注：例えば、45、68、72のように、それが適切ならば、中間の値のコードを用いること）

100	広範囲の行動にわたって最高に機能しており、生活上の問題で手に負えないものは何もなく、
91	その人に多数の長所があるために他の人々から求められている。症状は何もない。
90	症状がまったくないか、ほんの少しだけ（例：試験前の軽い不安）。すべての面でよい機能で、
81	広範囲の活動に興味をもち参加し、社会的にはそつがなく、生活に大体満足し、日々のありふれた問題や心配以上のものはない（例：たまに家族と口論する）。
80	症状があったとしても、心理的社会的ストレスに対する一過性で予期される反応である（例：家族と口論した後の集中困難）。社会的、職業的、または学校の機能にごくわずかな障害以上のものはない（例：一時的に学業で後れをとる）。
71	
70	いくつかの軽い症状がある（例：抑うつ気分と軽い不眠）、または、社会的、職業的、または学校の機能にいくらかの困難はある（例：時にずる休みをしたり、家の金を盗んだりする）が、
61	全般的には機能はかなり良好であって、有意義な対人関係もかなりある。
60	中等度の症状（例：感情が平板で、会話がまわりくどい、時にパニック発作がある）、または、社会的、職業的、または学校の機能における中等度の困難（例：友達が少ししかいない、仲間や仕事の同僚との葛藤）
51	
50	重大な症状（例：自殺念慮、強迫的儀式が重症、しょっちゅう万引する）、または、社会的、職業的、または学校の機能におけるなんらかの深刻な障害（例：友達がいない、仕事が続かない）
41	
40	現実検討かコミュニケーションにいくらかの欠陥（例：会話は時々非論理的、あいまい、または関係性がなくなる）、または、仕事や学校、家族関係、判断、思考、または気分など多くの面での重大な欠陥（例：抑うつ的な男が友人を避け、家族を無視し、仕事ができない。子供がしばしば年下の子供をなぐり、家庭では反抗的であり、学校では勉強ができない）
31	
30	行動は妄想や幻覚に相当影響されている、またはコミュニケーションか判断に重大な欠陥がある（例：時々、滅裂、ひどく不適切にふるまう、自殺の考えにとらわれている）、または、ほとんどすべての面で機能することができない（例：1日中床に横たっている、仕事も家庭も友達もない）。
21	
20	自己または他者を傷つける危険がかなりあるか（例：はっきりと死の可能性を意識しない自殺企図、しばしば暴力的になる、躁病性興奮）、または、時には最低限の身の清潔維持ができない（例：大便を塗りたい）。または、コミュニケーションに重大な欠陥（例：大部分滅裂か無言症）
11	
10	自己または他者をひどく傷つける危険が続いている（例：暴力の繰り返し）、または最低限の身の清潔維持が持続的に不可能、または、はっきりと死の可能性を意識した重大な自殺行為
1	
0	情報不十分

注：0-100 の尺度で全体的心理機能を評定することが Luborsky により健康-病気評定尺度として操作的に作られた (Luborsky L: "Clinicians' Judgments of Mental Health". Archives of General Psychiatry 7:407-417, 1962). Spitzer とその共同研究者らは全体的評定尺度 (GAS) と名づけた健康-病気評定尺度の改定版を作成した (Endicott J, Spitzer RL, Fleiss JL, Cohen J: "The Global Assessment Scale: A Procedure for Measuring Overall Severity of Psychiatric Disturbance". Archives of General Psychiatry 33: 766-771, 1976). GAS の改定版が機能の全体的評定 (GAF) 尺度として DSM-III-R に取り入れられた。